

## I 第3分科会のまとめ

### 1 生活と学習のサブリノートの導入に関して・・・

第3分科会の取り組みは、基礎基本の定着のために、学校における学習活動の準備性（レディネス）を高め、学力向上のための学習支援の方策を検討することを目的とした。

着目した点は、家庭学習の充実である。しかし、定められた時間に計画した内容を学習していくという習慣化がなされなければ、家庭学習の定着を図ることははなはだ難しい。つまり、規則正しい生活習慣がなされてこそ、学習活動も適切に行われると考える。だが、規則正しい生活を作り上げるためには、保護者の協力が不可欠である。そこで、家庭と学校を結ぶ連絡帳としての機能を持ち、なおかつ、学校及び家庭での学習内容を記入する「生活と学習のサブリノート」を考案し、学習支援の中心として活用を図ることとした。（生活と学習のサブリノートの活用の詳細については後に記述する。）

### 2 現在の状況と活用による利点・・・

平成19年度より、生活と学習のサブリノートの活用を始めた。初年度は、提出状況及び保護者のコメント記入なども芳しいものではなかったが、年を経過するに従い、その状況も良好なものへと変化してきた。現在は提出率が80%にのぼり、このノートの利用に関して、保護者の理解も深まっている。

#### (1) メリット

ア ノートの活用により生活記録、学習記録が行われるようになり、次の日の予定の確認、持ち物のチェックが行われ、忘れ物などの学習活動に対する妨げ要因が減少した。

イ 生活記録の活用により、教員と生徒、保護者の相互にコミュニケーション活動が増大し、生徒理解、学校理解が図られ、保護者との意見交換が増すことができた。

ウ 自己の生活を振り返ることで、生活の見直しが行われ、生活状況の改善に役立った。

#### (2) デメリット

定着し、効果が出るまで時間がかかる点が挙げられる。また、生徒それぞれは部活動など様々な活動を行っている。その活動の幅に差があるため、時間的に余裕が見いだせない者もいる。それ故、普段の学習に加え、負担が増えたと感じる者も見られた。また、保護者のチェックも負担ととられる場合もあった。よって、記入の方法などに検討の余地がある。

### 3 課題

課題として次の点があげられる。

#### (1) 活用方法及びチェック方法の検討

時間的な負担の軽減を図る必要がある。記入に関しても、また、点検に関してもよりよい方法を検討していく。

#### (2) 提出状況のよくない者に対する取り組み

利用状況が芳しくない者に対する指導、助言を実施し、活用による効用を示し、利用を促していく。

#### (3) さらなる利用便利性の追求

形式の変更など、さまざまな意見があがっている。それらを検討しよりよいものに作り替えていきたいと考える。

